The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ASEAN地域連携による高等教育の質保証とタイ王国のアクレディテーション・システム : 2015年度バンコク調査報告
Author(s)	島本, 英樹; 早田, 幸政; 堀井, 祐介 他
Citation	大阪大学高等教育研究. 2016, 4, p. 25-34
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56226
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大阪大学高等教育研究　4（2015），25−34

【調査報告】

ASEAN地域連携による高等教育の質保証と タイ王国のアクレディテーション・システム

― 2015年度バンコク調査報告 ―

島本　英樹[※1]・早田　幸政[※2]・堀井　祐介[※3]・林　透[※4]・望月　太郎[※5]・原　和世[※6]

Quality Assurance of Higher Education through ASEAN Regional Cooperation and Accreditation System of Thailand: Research Report 2015 Bangkok

Hideki SHIMAMOTO[※1], Yukimasa HAYATA[※2], Yusuke HORII[※3], Toru HAYASHI[※4], Taro MOCHIZUKI[※5], Kazuyo HARA[※6]

The ASEAN countries are rapidly developing, and they are also expressing interest in higher education quality assurance systems. We visited the ASEAN University Network, the Office for National Education Standards and Quality Assessment, the UNESCO Asia and Pacific Regional Bureau for Education, and the Southeast Asian Ministers of Education Organization's Regional Centre for Higher Education and Development to examine the latest trend in the creation of higher education quality assurance systems in the ASEAN countries. The aims of this research visit are as follows: (1) to understand how the ASEAN countries promote educational exchange in higher education, (2) to understand how the countries establish a cooperative quality assurance system for higher education to facilitate cross-border higher education services among the ASEAN countries, (3) to explore how the ASEAN network for higher education accreditation reflects the quality assurance of higher education in East Asia beyond the scope of ASEAN, and (4) to investigate the real picture and innovativeness of the higher education accreditation system including institutional evaluation and the educational program evaluation conducted in Thailand. In the future, the number of students from the ASEAN countries moving to Japan is expected to increase significantly. In order to improve the quality of higher education to meet the global standard, we must focus on the higher education quality assurance system in the ASEAN countries.

Keywords : Quality Assurance, Higher Education, Accreditation System, ASEAN, Thailand

所　属：[※1]大阪大学全学教育推進機構　[※2]中央大学理工学部　[※3]金沢大学大学教育開発・支援センター
[※4]山口大学大学教育機構大学教育センター　[※5]大阪大学ASEANセンター（バンコクオフィス）　[※6]大学基準協会
Affiliation : [※1]Center for Education in Liberal Arts and Sciences, Osaka University
[※2]Faculty of Science and Engineering, Chuo University
[※3]Research Center for Higher Education, Kanazawa University
[※4]Center for the Promotion of Higher Education, Education Services Department, Yamaguchi University
[※5]Osaka University ASEAN Center for Academic Initiatives, Bangkok, Thailand
[※6]Associate Director Division of Accreditation and Higher Education Studies, Japan University Accreditation Association (JUAA)
連絡先：Shimamoto@celas.osaka-u.ac.jp（島本　英樹）

はじめに

地球規模の技術革新が国や社会の在り方に変容を迫り，国境の枠組みを超えた社会・経済・文化の相互移転と共有の常態化が顕在化していく中，持続可能な知識基盤社会をグローバルなレベルで支えることのできる有為な人材の育成機能の強化が，世界全体の教育政策上の今日的課題となっている．そして，高等教育のグローバル化が，様々な分野での「知」の共有を加速化させるとともに，社会経済のシステム改革，地域の格差是正，環境の保全等，地球規模で派生する諸課題に効果的に対処することへの各国間の期待が高まっている．

このような各国間連携，地域間連携を通じた高等教育の充実・向上及びそのプロセスと成果の共有を実効あるものとするために，国境の枠組みを超えた高等教育の質保証の仕組みを構築・運用する動きが急速に広がりつつある．「ボローニャ・プロセス」の推進を通じ，欧州域内での円滑な「ヒト」の移動の促進並びに学位や単位の等価性・透明性の確保を図るための外部質保証の仕掛けとして2000年に設立された欧州高等教育質保証協会（ENQA）は，そうした地域レベルの高等教育質保証機関の代表格である．

こうした高等教育質保証のための各国間連携を模索する動きは，言語，宗教，文化及び経済発展の度合いが各国毎に異なる一方で，社会の持続的発展に向け共通の価値観の共有と地域全体の社会・経済並びに文化的な発展を指向するASEAN地域においてもとみに顕在化の様相を呈しつつある．本報告は，そうしたASEAN地域の高等教育の互換性と流動性を高めるとともに，その実効ある展開にとって不可欠である高等教育質保証のための体制構築に向けた現時点での取組の動向を明らかにしようとするものである．

1. 本調査の趣旨と具体的な実施方法

1-1. 本調査の趣旨

国境を超えた「ヒト」の相互交流や教育プログラムの協働化を促進させていく上で，大学制度のインテグレーション（統合）を視野に収めつつも，学位・単位の等価性に筋道をつける各国間の協働取組として大学教育の質保証システムの構築とその効果的運用を図ることが当面の課題となっている．併せて，ENQAの例にみられるような大学教育の質保証の地域連携を実のあるものとしていくためには，参加各国の大学教育の質保証の仕組みが整備されることが必要不可欠である．

すでに日・中・韓から成る東アジア圏では，「キャンパス・アジア」の名の下，学位に直結する教育プログラムの質保証を伴う国境を越えた系統的な大学間交流の実現に向けた模索が開始されている．現在やや足踏み状態にあるこのキャンパス・アジア構想については，同様に大学間の教育交流の促進に向け質保証の枠組み作りのための活動を開始したASEANと日・中・韓が連携する中で，その構想の実現を目指そうとする動きも強まりつつある．

そうしたASEAN諸国の大学間交流の促進に向けた教育質保証の枠組み作りは，「ASEAN大学ネットワーク（AUN）」，「東南アジア教育大臣機構・高等教育開発センター（SEAMEO-RIHED）」で現在進行中である．また，各種の会議開催やプロジェクトの運用を通じてこうした動きを側面から支援しているのが，「ユネスコアジア太平洋事務局（UNESCO Bangkok）」である．さらに，こうした動きを中心的に支えているタイにおいて，国内のアクレディテーション・システムの効果的運用を展開しているのが「全国教育評価機構（ONESQA）」である．

上記のような現状認識の下，本調査の趣旨は，ASEAN地域における大学教育の質保証の等価性や透過性をどのようなシステムを通して調整しようとしているのか，ASEANを構成する多様な諸国がそうした枠組みの中で，国境の壁を越え，大学間の教育交流を如何なる方式によって展開しようとしているのか，を明らかにすることにあった．併せて，ASEAN地域のハブとなっているタイの大学質保証システムの実相とその先進性について把握することも本調査の基本趣旨をなしていた．

1-2. 本調査の具体的な実施方法

上記趣旨を踏まえ，調査の対象機関を，a）AUN事務局，b）SEAMO-RIHED事務局，c）UNESCO Bangkok APEID（Asia-Pacific Programme of Educational Innovation for Development）事務局，d）ONESQA事務所，とした．

上記4機関の書面調査を経た後，訪問調査に先立ち，事前に次に示す質問事項を各機関毎に用意した．

［AUN事務局，SEAMO－RIHED事務局，UNESCO Bangkok）APEID事務局］

◇ASEANにおける高等教育への需要（学位レベル，分野等を含め）と規模
◇ASEANを構成する諸国における高等教育の現状と課題
◇ASEANの高等教育の質の等価性を図るための質保証のメカニズム（質保証の組織体制，評価基準，評価の実施手続等）
◇上記質保証のメカニズムと各国における質保証システムとの間の調整原理や調整方法（各国別の質保証システムの自律性の問題とも絡め）
◇ASEANの高等教育質保証の共通枠組みが，東アジアを含む他の国や地域に波及していく可能性（ASEAN諸国の若者が国外に留学生として移動する場合なども視野に入れつつ）

［ASEANセンター（バンコクオフィス）ONESQA事務局］

◇ASEANにおける高等教育質保証枠組みにおけるタイ国若しくはタイ国の質保証機関の位置づけ・役割
◇タイ国の高等教育質保証システムの概要並びに機関別評価と分野別評価の関係性
◇タイ国の高等教育質保証システムにおける「内部質保証」と「外部質保証」の関係性
◇タイ国の高等教育質保証における「ラーニング・アウトカム・アセスメント」の位置づけ
◇ASEAN地域の高等教育の質の通用性と等価性を確保する上での，ONESQAの質保証のメカニズムとASEANを構成する他の諸国における質保証システムとの間の調整原理や調整方法（各国別の質保証システムの自律性の問題とも絡め）
◇ASEANの高等教育質保証の共通枠組みが，東アジアを含む他の国や地域に波及していく可能性（ASEAN諸国の若者が国外に留学生として移動する場合も視野に収め）

以上の手続を経た後，2015年9月8日～11日にかけて，これら機関に対する訪問調査を行った．

訪問調査への参加者は，早田幸政（中央大学），堀井祐介（金沢大学），島本英樹（大阪大学），林透（山口大学），原和世（大学基準協会），大塚孝喜（エイデル研究所），望月太郎（大阪大学ASEANセンター（バンコクオフィス））であった．

2. AUN（ASEAN University Network）の現状と考察

2-1. AUNの設置経緯と歴史

AUN（ASEAN University Network）の構想は，1995年にASEAN6ヵ国の高等教育担当大臣により合意・署名され，6ヵ国11機関でのスタートを切った．1996年に第1回理事会が開催されて以降，2007年には，ASEAN10ヵ国の高等教育担当大臣が合意・署名するに至り，ASEAN地域における重要なアカデミック・ネットワークに成長した．その取組は，学生と教員による各種共同事業を通じ相互理解を促進することを目的とし，①青年交流，②学術研究連携，③高等教育連携のための基準・システム・政策の構築，④教育プログラムの構築・実施，⑤地域及び国際的活動基盤といった5つの領域を柱として活動している．近年では，ASEAN＋3の枠組などにより，日本，中国，韓国，さらにはEUといった域外パートナー（Dialogue Partner）との共同事業に取り組んでいる．

2-2. AUNの組織体制等

AUNの組織体制は，政策立案機能を担う理事会，実施機能を担う加盟大学，調整・モニター機能を担う事務局の3層構造で構成される．AUN 理事会（AUN Board of Trustees（AUN-BOT））は，各国政府から任命された加盟大学代表者，ASEAN事務局長，タイ高等教育委員会長官（AUN-BOT議長），上級教育会議議長（The Chairperson of Senior Official Meeting on Education（SOM-ED）），東南アジア教育大臣機構部長（Director of Southeast Asian Ministers of Education Organization（SEAMEO）），AUN事務局長で構成され，年1回開催される．AUN加盟大学は，ASEAN10ヶ国の各国数大学が参加し，2015年度時点で，表1のとおり30機関となっており，各国のトップ大学が名前を連ねている．

AUN事務局（タイ・チュラロンコン大学内）は，調整・モニター機能を担い，各種プログラムや活動の企画運営，評価等について関係機関と連携しながら実施する．特に，高等教育における地域連携の調整・実施には，ASEAN事務局と密接に協働する．

AUNの各種取組は「Academic Exchange」，「Cultural and Non-Academic Programmes」，「Training and Capacity Building」，「Academic Conference and Collaborative Research」の4つに分類される．各種取組の詳細は，AUN（2015）を参照願いたい．

表1　AUN加盟機関一覧

国名	大学名
Brunei Darussalam	Universiti Brunei Darussalam (UBD)
Cambodia	Royal University of Phnom Penh (RUPP), Royal University of Law and Economics (RULE)
Indonesia	Universitas Gadjah Mada (UGM), Universitas Indonesia (UI), Inistitut Teknologi Bundung (ITB), Universitas Airlangga (UNAIR)
Lao PDR	National University of Laos (NUOL)
Malaysia	Universiti Malaya(UM), Universiti Sains Malaysia (USM), Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM), Universiti Putra Malaysia (UPM), Universiti Utara Malaysia (UUM)
Myanmar	University of Yangon (UY), Institute of Economics, Yangon (IEY), University of Mandalay

The Philippines	De La Salle University (DLSU), University of the Philippines (UP), Ateneo de Manila University (ATMU)
Singapore	National University of Singapore (NUS), Nanyang Technological University (NTU), Singapore Management University (SMU)
Thailand	Burapha University (BUU), Chulalongkorn University (CU), Chiang Mai University (CMU), Mahidol University (MU), Prince of Songkla University (PSU)
Viet Nam	Vietnam National University, Hanoi (VNU-HN), Vietnam National University-Ho Chi Minh (VNU-HCM), Can Tho University (CTU)

2-3. AUNによる高等教育システム

ここでは，AUNが構築する高等教育システムである，AUN-ACTS（ASEAN Credit Transfer System）及びAUN-QA（Quality Assurance）の概要と課題等について言及する．

（1）AUN-ACTS

AUN-ACTSは，ASEAN地域の学生移動や教育連携を円滑化するための単位互換システムである．ACTSは，成績評価基準，単位互換可能な科目リストのオンライン提示，科目履修のオンライン申請の3つの要素で構成されている．2008年，AUNはASEAN地域の学生交流の発展を目指し，加盟大学間の単位互換システムを提案し，翌2009年，AUN-ACTSの開発にむけた検討委員会が設置された．2010年以降，インドネシア大学を幹事校にし，管理運営されている．2013年には，AUN-ACTSの拡充を目指し，日本の大学との提携が進み，京都大学や岡山大学からの科目提供が見られる．対象科目数は，2014年度14,138科目，2015年度19,549科目と増加傾向にある．

AUN-ACTSの単位互換方法は，UMAPと基本的に同様で欧州のECTSの概念を発展させたものであるが，欧州型の単位互換制度の換算方法や成績評価の相対的評価システムの活用がアジアの高等教育環境では難しい側面があると指摘されている（堀田2011）．また，AUN-ACTSの対象がASEAN10カ国のトップ大学30校に限られ，かつ，同制度を活用する国や機関に偏りが見られ，東南アジア全体の学生交流充実への貢献に一定の限界がある．

（2）AUN-QA

AUN-QAは，ASEAN地域の高等教育水準向上を目的とした質保証システムであり，プログラムアセスメント（AUN Actual Quality Assessment at Programme Level）を実施している．AUN-QAは，1998年から検討が開始され，ガイドラインやマニュアルの策定を経て，2007年に最初のプログラムアセスメントが実施された．プログラムアセスメントは15基準（詳細はAUN（2014）を参照）に基づき，自己評価・書面調査・訪問調査を行い，最終的に基準ごとに7段階で評定する．2007年度以降の受審状況は図1のとおりである．

AUN-QAでは，「Strategic＝機関レベルの質保証」，「Systemic＝内部質保証システム」，「Tactical＝プログラムレベルの質保証」の三層モデルを位置づけている．このうち，プログラムアセスメントは，プログラムレベルの外部質保証であり，教育・学習におけるインプット・プロセス・アウトプットの質に焦点を当て，学習成果，プログラム構成，教育・学習方法やプロセス，教職員・学生の質，学生指導・支援，アウトプット（卒業率，退学率，就職率），ステークホルダーからの情報収集・分析といった点を評価する．

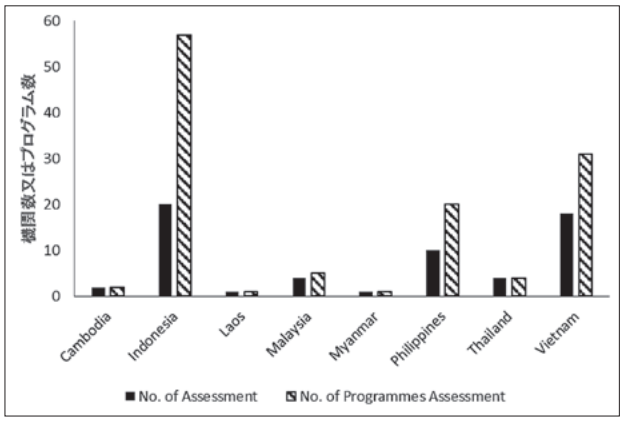

図1　AUN-QAの国別受審状況（2007-2015）
（出典：AUN（2015）より筆者作成）

2-4. まとめ

今回の調査対象としたAUNの取組の多様な展開と質保証システムの構築は，アジア太平洋地域，欧州地域の動向を踏まえた着実な取組に映った．AUN以外に訪問したユネスコや東南アジア教育大臣機構を含めたASEAN地域の大学間連携の取組は多重的である．今後，役割分担の一層の明確化を図りながら，相互連携することで，一層の発展が期待できる．

AUN，ONESQA（タイ評価機関）などの質保証機関の中枢を担うスタッフには，日本留学経験を有する者が多く，この人的ネットワークを活かすことで，日本の大学が関与・貢献できる余地を感じた．AUNの近年の取組では，日本をはじめとするASEAN＋3枠組を活かしたケースが顕著になってきている．

今後，東南アジアを中心とした学生移動には更なる発展性が見込まれ，高等教育のグローバル化の局面に苦心

する日本の大学は，文部科学省スーパーグローバル創成支援事業，世界展開力強化事業などを通して，ASEANにおける地域連携や学生移動に貢献し，自らの質的転換を図る機会獲得に積極的に活かすべきであろう．

参考文献

・ASEAN University Networkホームページ http://www.aunsec.org/index.php（2015年11月16日閲覧）
・ASEAN University Network（2015）『2014-2015 ANNUAL REPORT』
・ASEAN University Network（2014）『GUIDE TO AUN ACTUAL QUALITY ASSESSMENT AT PROGRAMME LEVEL』
・黒田一雄編著（2013）『アジアの高等教育ガバナンス』アジア地域統合講座・専門研究シリーズ3，勁草書房
・堀田泰司（2011）「アジア高等教育における共通の教育フレームワークを使った学生交流の課題と可能性　－欧州エラスムス事業の経験と比較して」『メディア教育研究』第8巻第1号，放送大学ICT活用・遠隔教育センター，pp.33-45

3. SEAMEO-RIHED（Regional Center for Higher Education and Development，高等教育開発センター）について

2015年9月10日（木）午後にSEAMEO-RIHEDを訪問し，事務局長のChantavit Sujatanond博士ほかスタッフからその活動について話をうかがうことが出来た．SEAMEO-RIHEDは，Southeast Asian Ministers of Education Organisation（SEAMEO）（東南アジア教育大臣機構）配下の高等教育研究センターである．SEAMEOは，東南アジア諸国における教育，科学，文化面での交流促進を目的として1965年に設立された政府間機構であり，ASEAN10ヶ国に東チモールを加えた11ヶ国がそのメンバーとなっている．SEAMEO-RIHEDは，SEAMEO設立以前の1959年にシンガポールに設立された機関を源流とし，1993年にSEAMEO配下のセンターとしてタイに設立された．

SEAMEO-RIHEDの使命（mission）は，高等教育における共有を容易にするため，システム研究，権限委譲，協調，メカニズムの開発を通して，東南アジア地域における高等教育の効率性，有効性，調和を促進することとされている．また，地域発展に資する高等教育における理解，協調，相乗効果を促進する，行動的，戦略的であり，国際的に認知された地域センターとなることを目標（vision）として掲げている．

SEAMEO-RIHEDは，タイ政府が予算等の支援を行っており，バンコクの教育省高等教育委員会のビルに事務所が置かれている．SEAMEO-RIHEDでは理事会（Governing Board）が主要な意志決定機関である．理事会は，東チモールを除くSEAMEOメンバー国からの代表各1名から構成されている．5か年計画の枠内での運営方針，戦略企画，年度評価，SEAMEO-RIHEDが提供するプログラムの評価，予算に対して責任を負うこととなっている．SEAMEO事務局長とSEAMEO-RIHED事務局長は理事会の職指定メンバーとなっている．SEAMEO-RIHEDの日常業務はタイ政府教育相から指名され，理事会で承認され，正式にSEAMEO協議会議長が任命した事務局長が取り仕切っている．国内外の機関および加盟国のパートナーと協力して働く資格のあるスタッフが実務を担当している．

SEAMEO-RIHEDの活動目的は，域内における高等教育の調和（harmonization）を目指すことであり，そのため高等教育における政策，計画，管理運営を含む各種活動に対する相互理解，協力・連携，認識共有拡大を進めている．より詳細な活動目的としては，

- 政策および企画プロセス，管理運営システムに焦点を当て，人的資源開発を統合するための個々の加盟国毎の文化的要素とともに，個別の要望および喫緊の課題を考慮しつつ，専門的な訓練，政策指向の研究を通して，加盟各国における高等教育の効率性，有効性を促進すること
- 域内外における高等教育関連の企画・運営に関する情報および研究成果の交換および流通を促進する地域センターとして，また，高等教育関連情報および文書交換の場としてサービス提供を行う
- 機関としての連携を構築することにより加盟各国間での協力を促進し，機関設立とその発展を強化することを支援する

があげられている．

SEAMEO-RIHEDには正式メンバーとしてのSEAMEOメンバー11ヶ国に加えて，オーストラリア，カナダ，フランス，ドイツ，オランダ，ニュージーランド，スペイン，英国が準会員として，International Council for Open and Distance Education（ICDE），British Council，筑波大学が連携機関となっている．これらの他にも，いわゆるASEAN＋3の＋3メンバーである日本，中国，韓国との連携も行っている．

SEAMEO-RIHEDの具体的な活動としては，域内での学生・研究者交流を進めるものとしてのASEAN

International Mobility for Students（AIMS）プログラム，域内での単位互換枠組みAcademic Credit Transfer Framework for Asia（ACTFA），質保証活動としてのASEAN Quality Assurance Network（AQAN）およびASEAN Quality Assurance Framework for Higher Education（AQAFHE），研究連携としてのASEAN Research ClusterおよびASEAN Citation Index，能力開発としての欧米等へ訪問調査および各種研修実施，E-Learning・Mobile Learning推進活動などがあげられる．

今回はこれらのうち，AIMSとACTFAについて簡単に説明させていただく．AIMSはSEAMEO-RIHEDの活動の核となる教育プロジェクトとして，2009年に始まったマレーシア（M），インドネシア（I），タイ（T）で実施されていたM-I-T学生移動パイロットプロジェクト（3ヶ国22大学参加）を拡大したものであり，訪問時に配布されたリーフレット“SEAMEO-RIHED AIMS Programme”によると，現在では7ヶ国61大学が参加し，10領域（Language and Culture, Hospitality and Tourism, International Business, Food Science and Technology, Agriculture, Engineering, Economics, Environmental Science and Management, Biodiversity, Marine Science）において1,200名以上の学士課程学生が交流している．

ACTFAは，これまでのASEAN Credit Transfer System（ACTS）がASEAN University Network（AUN）参加のトップ大学主導でうまく機能していない，また，それとは別のUniversity Mobility in Asia and the Pacific（UMAP）における単位互換制度構築を目指した取り組みUMAP Credit Transfer Scheme（UCTS）も使いにくいとのことで，SEAMEO-RIHEDが，他のプロジェクトと同様にアジア開発銀行（Asian Development Bank（ADB））の支援を受けて進めている新しい単位互換の仕組みである．ACTFAはACTS等の他の仕組みと異なり，各国固有のシステムを尊重する形での柔軟な枠組みであり，2015年現在，”Harmonization and Networking in Higher Education, Building a Common Credit Transfer System for Greater Mekong Subregion（GMS）and beyond.”というタイトルのプロジェクトとして実証実験中である．

参考文献

・http://www.rihed.seameo.org/（2015年10月30日閲覧）
・RIHED Annual Report 2014-2015 p.2 http://www.rihed.seameo.org/wp-content/uploads/2015/09/Annual-Report-2014-2015.pdf（2015年10月30日閲覧）
・http://www.aunsec.org/index.php（2015年10月30日閲覧）
・http://www.aunsec.org/aunmemberuniversities.php（2015年10月30日閲覧）
・http://www.umap.org/UMAP_ST2/WebFrontPage/HomePage.aspx（2015年10月30日閲覧）
・http://www.rihed.seameo.org/programmes/credit-transfer-system/（2015年10月30日閲覧）

4. ユネスコアジア太平洋事務局（UNESCO Bangkok）

UNESCOは，国連を代表する組織体の一つで，教育，科学，学術文化の発展とその相互交流を通して，国際社会の平和と貧困の撲滅そしてそれらを基礎に形成された持続的な社会の発展に貢献するという役割の完遂に向けて活動を行っている．こうした活動の一環として，UNESCOは，高等教育のグローバルな質保証の局面において大きな貢献を果たしてきた．

1995年のWTO「サービス貿易に関する一般協定（GATS）」の発効によって高等教育が自由貿易対象サービスとして位置づけられ戦略的投資の目玉となったことに伴い，劣悪な高等教育サービスや「ディグリー・ミル」の横行など，グローバルなレベルでの高等教育の質への懸念が現実味を増してきた．こうした事態に対処するため，2005年12月のUNESCO総会で「国境を越えて提供される高等教育の質保証に関するガイドライン（Guidelines for Quality Provision in Cross-border Tertiary Education）」を採択し，悪質な大学教育提供者による被害から学習者その他の利害関係者を保護し，以て適切な質の大学教育が国境を越えて進展することを促そうとした（これと並行してUNESCOは，「正式に認められた高等教育機関に関するUNESCOポータル（UNESCO Portal to Recognized Higher Education Institution）」を公表し，信頼できる各国の高等教育機関の一覧を提示した．但し，それは，個別高等教育機関の具体的な教育情報を含むものではない）．さらにUNESCOは，2006年，高等教育質保証機関の国際ネットワークであるINQAAHEの下部組織でアジア・太平洋地域における高等教育質保証機関の地域連合である「アジア・太平洋質保証ネットワーク（Asia-Pacific Quality Network, APQN）」と共同で「ユネスコ/APQNツールキット：国境を越えた教育の質の規制（UNESCO/APQN Toolkit: Regulating the Quality of Cross-Border Education）」を策定し発効させた．同文

書は，国境を越えた教育の受入国または提供国の立場から，質保証の規制枠組みを構築するための決定を行うに当り，政策担当者を支援するためのツールとして提案されたものである．そして，中国，マレーシア，香港などの国や地域では，この文書の活用を通して，海外のプロバイダーから提供される高等教育サービスの質管理の措置が講じられている．

UNESCOの地域センターとして1961年に設立された「ユネスコアジア太平洋事務局（UNESCO Bangkok）」は，1961年に設立され，UNESCOの基本的な活動方針に基づき，アジア太平洋地域の教育の任務に携わるとともに，同地域のクラスターオフィスとしての役割も果たしている．

同事務局は，教育に関わる役割として，アジア太平洋地域に所在するユネスコ加盟国やユネスコ関連機関に対し，政策上の助言や技術支援及び人材開発に関わる支援を行うとともに，教育分野における知的パートナーシップや知的ネットワークの形成といった活動を行っている．また，クラスターオフィスとしての立場から，同事務局は，タイ，ミャンマー，ラオスといった「メコン（Mekong）」川流域諸国の国々を対象とするユネスコ固有の各種プログラムを実施に移している．

さらに，ユネスコアジア太平洋事務局は，社会の持続的な発展に向けた教育，グローバルなシチズンシップ教育といった創造的で責任感にあふれた市民の教育にも力を注いでいる．前者の教育は，持続する社会において要求される知識・能力，態度及び価値観を習得する機会が全ての人々に保障されることを内容としている．後者の教育では，世界の至る所で生起している問題に地域レベル，地球レベルの双方で取組みこれを解決する役割を担うとともに，寛容で平和指向の持続ある社会の発展に貢献できるような人材の育成が目指されている．

ユネスコアジア太平洋事務局は，高等教育については，第1に，高等教育システムや高等教育機関のガバナンスの強化，高等教育の相互認証に係るアジア太平洋地域の会議の開催を通じた高等教育の国際化の促進，開放教育・遠隔教育の推進及び開放教育を支える資源の充実化に向けた活動に取り組んでいる．第二に，教員の資質・能力の向上に焦点を当て，教員養成に関する方針を具体的に実行すべく，そのための効果的な方策やプログラムを企画している．

具体的には，次のようなプログラムを展開させている．

◇ Asia-Pacific Programme of Educational Innovation for Development（APEID）
当プログラムでは，高等教育を対象に，人の持続的な成長に資するような教育上の刷新の支援が行われている．

◇ Education Policy and Reform（EPR）
当プログラムでは，国の教育政策，教育財政計画並びに通常の教育と職業教育，訓練教育のマネジメントと改革への支援が行われている．

◇ Regional Unit for Social and Human Sciences in Asia and the Pacific（RUSHSAP）
当プログラムでは，世界レベルでの科学者倫理の向上と各国間の対話の促進が指向されている．

上記プログラムの運用を通して，ユネスコアジア太平洋事務局は，高等教育の継続的な刷新による有為な人材育成のための支援，高等教育機関のマネジメント改革等の支援を，対話と情報の共有化を図ることによって実現すべく努力している．とりわけ，APEIDプログラムは，質の高い教育による人的資源の開発を通じた平和で寛容な社会の持続的な発展を標榜するUNESCOの趣旨・目的に沿う内容のものとなっている．そうしたプログラムの実効性をより高度に担保していく上においても，ユネスコアジア太平洋事務局が，その所轄の地域において，高等教育の質保証に携わる人々やその機関ネットワークのコーディネーターとして果たすべき役割に大きな期待が寄せられている．

参考文献

・http://www.unescobkk.org/（2015年11月7日閲覧）
・http://unesdoc.unesco.org/images/0022/002284/228479E.pdf（2015年11月7日閲覧）

5. ONESQA（Office for National Education Standards and Quality Assessment）について

2015年9月10日に訪問したONESQAについて，下記の通り報告する．

ONESQAは，1999年のNational Education Lawに基づき，国王令（Royal Decree, Establishing the Office for National Education Standards and Quality Assessment（Public Organization）B.E. 2543）により，大学のみならず，タイにおける教育機関の質を高めることを目的とした評価を実施するために2000年に設立された公的機関である．なお，この国王令には，ONESQAの設立，目的，

資源，収入，組織，事業内容等が規定されている．現在，ONESQAには，専任スタッフ83名，非常勤スタッフを合わせると約100名が所属している．

タイの大学は，ONESQAによる評価を5年に1度受けることになっている．この評価は，2001年から開始され，2015年は第3期の最終年にあたる．

第1期（2001年～2005年）では，大学の現状を確認し，各大学において質保証システムが正しく運用されるよう，支援することに重点をおく評価に取り組み，第2期（2006年～2010年）では，教育の質の改善，評価の基準の開発のために，第1期の評価結果を活用することを各大学に促し，第3期（2011年～2015年）では，教育のアウトプット，アウトカムに着目し，評価基準及び質の向上を目的とする評価を実施している．なお，ONESQAが実施する評価は，国からの補助金等には現在リンクしていないと，インタビュー時に説明を受けた．

第3期では，18の指標（indicators）を設定し，これらに基づき評価している．これら指標は，Basic indicators（15），Identity indicators（2），Social responsibility indicators（1）にグループ区分されている（いくつかの指標はさらに下位区分されている）．例えば，Basic indicatorsとして，Quality of the graduates，Research and creative works，Academic Service to society，Nurturing arts and culture，Institutional administration and development，Internal Quality assurance and development，と15の指標が示されている．そして，各指標を5ポイント，計100ポイントとし，各指標について，Quality Levelとして，5段階（0.00-1.50，1.51-2.50，2.51-3.50，3.51-4.50，4.51-5.00）に分けて評価し，さらに特定の指標においては，その平均値が3.51以上であるよう求めている（4.51-5.00：Excellent，3.51-4.50：Good，2.51-3.50：Fair，1.51-2.50：Improvement required，0.00-1.50：Urgent improvement requiredとなる．）．なお，この点数は，他大学とのランキングのためではなく，各大学の到達度としての判断基準であると先方より説明を受けた．

ONESQAの評価プロセスは，日本の評価プロセスと類似している．すなわち，大学からの自己点検・評価報告書を基に，評価者は所見を作成し，その後，評価チームでのミーティングにおいて，実地調査での確認すべき点等を決定する．そして，実地調査後，評価結果を作成する．評価結果を確定する前に，大学に対して意見申立の機会を与え，確定した評価結果を，大学に通知するとともに，関係機関に対して報告し，社会に公表する．

ONESQAでは，特にデータ収集を重視している．データ収集においては，主に3つの手法を挙げている．まず，資料分析では，各種報告書，会議体の議事録の他，研究成果や学生の学習成果に関するレポートを確認する．次に，インタビューでは，教職員，学生の他，卒業生の雇用主もインタビューの対象者としている．そして，観察として，授業の様子等をあげている．

タイの大学における質保証について，簡単に紹介したい．タイでは，OHEC（Office of Higher Education Commission，高等教育委員会）から求められている内部質保証（Internal Quality Assurance）と，ONESQAによる第3者評価（External Quality Assessment）によって，各大学の質保証に取り組んでいる．OHECから求められている内部質保証とは，各大学（部署）での諸活動に対して自己点検・評価した結果について，自己点検・評価報告書としてとりまとめる．これを3年ごとにParent Organizationが監査し，大学（部署）へフィードバックする一連のプロセスである．この内部質保証には，TQF（Thailand Qualification Framework），AUN-QA，CUPT-QAなどの資格枠組み，AACSBなどの国際的な評価機関によるプログラム評価等も含まれている．ONESQAによる評価は，これらの内部質保証に関する取組みがうまく機能しているかをモニタリングすることで「外部質保証」としての役割を果していることになる．内部質保証では，大学の諸活動におけるインプット，プロセス，アウトカムをモニタリングすることに重点を置き，外部質保証ではアウトプット，アウトカムに焦点を置くこととしている．

ONESQAの目標として，外部評価機関としてさらに高い効率性を追求することを掲げ，教育の質のスタンダードを確立し，ASEAN地域内においてこれを発展させながら共有，促進することを目指し，各種評価活動を実施している．

参考文献

・ONESQA（2013）『Manual for Assessors the third-round of external quality assessment for higher education 2011-2015』

・The Office of National Education Standards and Quality Assessment（2015）『Quality Assurance in Thailand』pp.20-22

6. ASEAN地域における高等教育質保証システムの構築に向けた取組の意義～結びに代えて～

今回，ASEAN地域連携による高等教育の質保証に関する訪問調査を行ったタイの首都，バンコクにはASEAN地域への進出を目指す日本の大学の海外拠点事務所が次々に設置され，最近，その数が急激に増加し，調査を実施した2015年9月の時点で，この種の事務所の数は39を数えるまでになった．終章の筆者がセンター長を務める大阪大学ASEANセンター（旧大阪大学バンコク教育研究センター，2006年設置）もその一つであるが，京都大学ASEAN拠点事務所の設置を機会に，昨年，これらの大学海外拠点事務所における活動の連携，情報共有と親睦を目的として当地の大学連絡会（JUNThai: Japan Universities Network in Thailand）を設立し，現在，名古屋大，阪大，東海大，福井工大の現地事務所代表者が幹事となって運営に当たっている．3ヶ月に1回会合を開き，メンバー校の28大学及びオブザーバー機関（常任オブザーバーは在タイ日本国大使館，日本学術振興会バンコク研究連絡センター，日本学生支援機構バンコク事務所他の5機関）からの出席者が最新情報の交換，特色ある取り組みの紹介等を行っている．第2回会合の際には，本報告でも取り上げられているAUN事務局長Dr. Nantana Gajaseniを講師に招き，AUNの活動について勉強した．しかしながら，日本の大学の弱みは，こうした現地での活動の連携が最近になって漸く緒に就いたところではあるが，まだまだ全体としてプレゼンスが低いということである．個々の大学はそれぞれにASEAN諸国の大学や研究機関，さらには現地の民間企業を相手に特色ある学術交流を行っているが，日本政府（特に文部科学省）やその他の本来リーダーシップを取るべき機関（大学評価・学位授与機構等）と現地に進出する大学が効率的に情報を共有しているとは言い難く，また，その結果，政府と大学レベルの活動が同期せず，もたついているのが現状である．そして，特に今回訪問した国際機関や外国政府機関を相手にした時，この非効率が，汪利兵教授（UNESCO-Bangkok, APEID事務局長）が正しく指摘していたように，日本の高等教育機関が高度な教育と研究成果を誇るにもかかわらず，その国際的プレゼンスの低さを結果しているのである．

ASEAN加盟国における高等教育の連携・リージョナリゼーションに向けた動きは，第2章で指摘しているように，多重的である．高等教育質保証システムの構築に関しても，その多重性が問題である．様々な取組が多重なレベルで実施されている．AUNが主導する単位互換システムや質保証ネットワークには大学や第三者評価機関が参加する．SEAMEO-RIHEDが立案する政策や企画には政府レベルでの参加と国際協力が不可欠である．そして，タイではONESQAのような機関が国家単位での外的質保証を適切に管理するといった，個々の大学等アクターの教育研究活動を重層的に支援し，評価する活動がASEAN地域における高等教育の統合を可能にする仕組みとしてそれぞれに機能している．さらに，その働きを，条約の締結や資格枠組み（Qualification Framework）の国際的認証により，グローバルなレベルで助けるのがUNESCOの役割である．しかし，それらの機能が統合的にシステムを構成するような形で働いているかといえば，必ずしもそうではない．例えば，単位互換システムについては，AUN-ACTSを利用するのは一部のトップ大学に限られる，その一方で，SEAMEO-RIHEDは別のシステムを構築しようとしている．他方，先行したUMAP-UCTSは形骸化している．また，国際的なプログラム評価システムであるAUN-QAは，タイにおいては国家レベルでのONESQAの機関評価と，どう関連するのかといった問題もある．UNESCOの「アジア太平洋地域における高等教育の学業，卒業証書及び学位の認定に関する地域条約」（バンコク条約，1983年）については，ASEAN地域では，インドネシアとフィリピンを除いた他の諸国は締約していない（ASEAN＋3では，中国と韓国が締約国，日本は締約していない）．しかしながら，地域統合は今後の課題であるとしても，これらの機関が地域に，延いては世界に開かれた形で運営されているということが，ASEAN地域における高等教育質保証システムの構築に向けた現今の取組の意義であろう．

さて，こうしたASEANの高等教育をめぐるリージョナルかつ重層的な動向に対して，プラス3諸国が機敏に対応できるか否かが，その国の高等教育に関する国際的プレゼンスを高める上での鍵になる．今，奨学金プログラムでAUNを全面的に支援している中国の教育省，あるいは学生交流をAUNと連携して組織的に進めている韓国の大学と比較して，日本の文部科学省や諸大学は動きが鈍くないか，また地域において「見える」ような活動を行っているか，その点を問い直し，戦略を練り直し，足並みを揃えて対応して行くべきである．推計約5000万人を超える高等教育学齢者人口と約1500万人に達するであろう高等教育機関在学者数を有するASEAN地域

である．留学生市場としての重要性も然ることながら，グローバルな次元で高等教育の将来を占うためにも，この地域での高等教育とその評価をめぐる今後の動きに注目したい．

受付 2015.12.01 ／受理 2016.01.20

参考文献

・http://www.mext.go.jp/unesco/009/003/014.pdf　UNESCO 関係条約一覧（2015 年 11 月 25 日閲覧）
・http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/qa/no17_oview_asean_201403.pdf　独立行政法人大学評価・学位授与機構「ASEAN 諸国高等教育概要一覧」（2014）から推計　（2015 年 11 月 25 日閲覧）